

令和7年(2025年)2月18日(火)
(公財)広島平和文化センター
平和記念資料館学芸課 課長:豆谷
電話:241-4004 内線5804
担当:小山

広島平和記念資料館企画展
ユネスコ「世界の記憶」登録候補
広島原爆の視覚的資料ー1945年の写真と映像
を開催します

昭和20年(1945年)8月6日の広島への原爆投下直後から同年12月末までに撮影された写真・映像は、原爆投下で壊滅した街の様子、重度の火傷や放射線による急性障害で苦しむ市民の姿を記録しており、原爆の被害を克明に伝えるものです。

これらの資料の中には、終戦に伴う軍の処分命令や米軍からの提出の要求などにより散逸の危機に直面したものもあり、撮影者や遺族、関係者によって大切に保管されてきたものでもあります。

令和5年(2023年)9月、これらの資料を所蔵する広島市、中国新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、中国放送、日本放送協会の6者により、「広島原爆の視覚的資料ー1945年の写真と映像」*として、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)「世界の記憶」の国内審査に申請されました。同年11月、日本政府はこれを推薦することを決定し、現在ユネスコで審査が行われています。

この企画展では、申請された写真と映像の一部を撮影者ごとに紹介するとともに、資料館所蔵資料のほか共同申請者が所蔵する関連資料を展示します。

この展示を通じて、「世界の記憶」登録に対する関心を高めるとともに、原爆投下による惨状に向き合い、その光景をカメラに収めた撮影者の心情に触れ、これらの資料を保存し後世に伝えることの大切さや核兵器廃絶の重要性を実感していただければと思います。

*ユネスコ「世界の記憶」

「世界の記憶」とは、世界的に重要な記録物への認識を高め、保存やアクセスを促進することを目的としてユネスコが1992年(平成4年)に開始した事業です。

対象は、文書や書物、楽譜や手書きの写本だけでなく、絵画、地図、ポスター、映画など全世界で多岐にわたる記録物が登録されています。

1 期間

令和7年(2025年)2月28日(金)~9月16日(火)

2 会場

広島平和記念資料館東館1階企画展示室

3 展示構成

- (1) 広島の壊滅ー「広島原爆被災撮影者の会」関係写真
- (2) 被爆地に入るー新聞社・通信社関係写真・映像
- (3) 廃虚を歩いてー学術調査関係写真・映像

4 展示点数

写真パネル、映像、現物資料など約 140 点

*ユネスコに申請中の写真 1532 枚と動画 2 本のうち、写真 86 枚、動画 2 本を展示

5 入場料

無料

6 後援団体

朝日新聞社、NHK 広島放送局、共同通信社、中国新聞社、中国放送、毎日新聞社（五十音順）

【関連図書展】

1 展示タイトル

ユネスコ「世界の記憶」登録候補 広島原爆の視覚的資料—1945 年の写真と映像 関連図書の展示

2 期間

令和 7 年（2025 年）2 月 28 日(金)～9 月 16 日(火)

3 展示場所

広島平和記念資料館東館地下 1 階 情報資料室

4 展示内容

登録候補の写真が掲載された図書、撮影者を紹介した図書や雑誌 44 冊

5 入場料

無料

広島平和記念資料館 令和6年度第2回企画展

ユネスコ「世界の記憶」登録候補

広島原爆の視覚的資料

—1945年の写真と映像



陸軍船舶練習部から撮影したきのこ雲 木村権一撮影 1945年(昭和20年)8月6日 爆心地から4,000m 宇品町

入場無料

期間 2025年(令和7年)2月28日(金)～9月16日(火)

会場 広島平和記念資料館 東館1階 企画展示室

後援 朝日新聞社、NHK広島放送局、共同通信社、中国新聞社、中国放送、毎日新聞社

1945年(昭和20年)8月6日の広島への原爆投下直後から同年12月末までに撮影された写真・映像は、原爆投下で壊滅した街の様子、重度の火傷や放射線による急性障害で苦しむ市民の姿を記録しており、原爆の被害を克明に伝えるものです。

これらの資料の中には、終戦に伴う軍の処分命令や米軍からの提出の要求などにより散逸の危機に直面したものもあり、撮影者や遺族、関係者によって大切に保管されてきたものもあります。

2023年(令和5年)9月、これらの資料を所蔵する広島市、中国新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、中国放送、日本放送協会の6者により、「広島原爆の視覚的資料—1945年の写真と映像」として、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)「世界の記憶」*の国内審査に申請されました。同年11月、日本政府はこれを推薦することを決定し、現在ユネスコで審査が行われています。

この企画展では、申請された写真と映像の一部を撮影者ごとに紹介するとともに、資料館所蔵資料のほか共同申請者が所蔵する

関連資料を展示します。

この展示を通じて、「世界の記憶」登録に対する関心を高めるとともに、原爆投下による惨状に向き合い、その光景をカメラに収めた撮影者の心情に触れ、これらの資料を保存し後世に伝えることの大切さや核兵器廃絶の重要性を実感していただければと思います。

2025年(令和7年)2月 広島平和記念資料館

*ユネスコ「世界の記憶」とは、世界的に重要な記録物への認識を高め、保存やアクセスを促進することを目的としてユネスコが1992年(平成4年)に開始した事業です。対象は、文書や書物、楽譜や手書きの写真だけでなく、絵画、地図、ポスター、映画など全世界で多岐にわたる記録物が登録されています。

《展示構成》

1. 広島市の壊滅—「広島原爆被災撮影者の会」関係写真
2. 被爆地に入る—新聞社・通信社関係写真・映像
3. 廃虚を歩いて—学術調査関係写真・映像



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

- ① 被爆後の市街地に立つ少女 国幸幸男撮影 毎日新聞社所蔵／② 御幸橋西詰の惨状 松重美人撮影 中国新聞社所有 日本写真保存センター所蔵
③ 頭髮の抜けた姉弟 菊池俊吉撮影 田子はるみ所蔵／④ 脱線した貨車 中田左都男撮影 共同通信社所蔵／⑤ 火傷の手当てを受ける少年 宮武甫撮影 朝日新聞社所蔵
⑥ 太田川の堤防に設けられた臨時救護所 川原四儀撮影／⑦ 広島県商工経済会望楼から撮影したパノラマ写真 林重男撮影

